

2025年日本国際博覧会 トイレ1



外観

「トイレ1」は、反射効果により、空間が広がって見えるよう安全鋼板で仕上げています。基本、各ブースには入口・出口と2枚の扉を設け、利用者は外側から入り、出ると内側にある中庭が眺められる。



案内図



案内図は、サインと同じピクトグラムを用い、仕様を確認することができます。また、英語と日本語の2ヶ国語表記とし、「夢洲の庭」を囲む建築のコンセプトも揭示している。

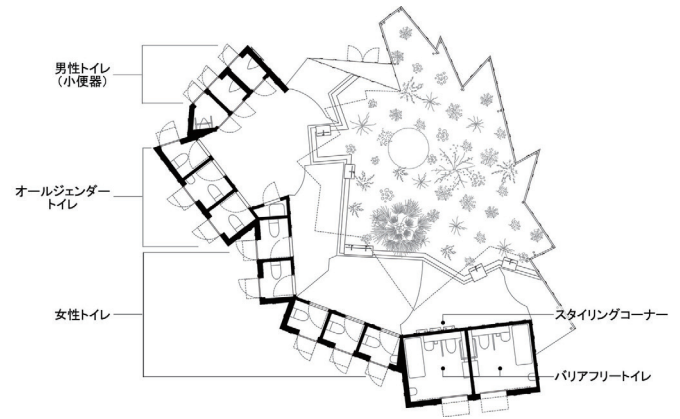


夢洲の庭

中央に配置された庭は、以前の夢洲に生息していた植物や鳥類が棲みつき形成されていた、独自の生態系を再現。アーカイブされた「夢洲の庭」を一望できる。洗面コーナーは、庭の雰囲気を感じながら利用できる。

図面

各個室に、入口と出口を備えた男女別トイレ、オールジェンダートイレ。さらに、左右勝手違いのバリアフリースペースを設置している。



女性トイレ



大便器は、コンパクトで連続洗浄が可能なパブリックコンパクト便器・フラッシュタンク式を設置。大便器ブースには入口・出口の扉があり、出ると「夢洲の庭」へ繋がる。オールジェンダートイレも同仕様としている。



男性トイレ(小便器)

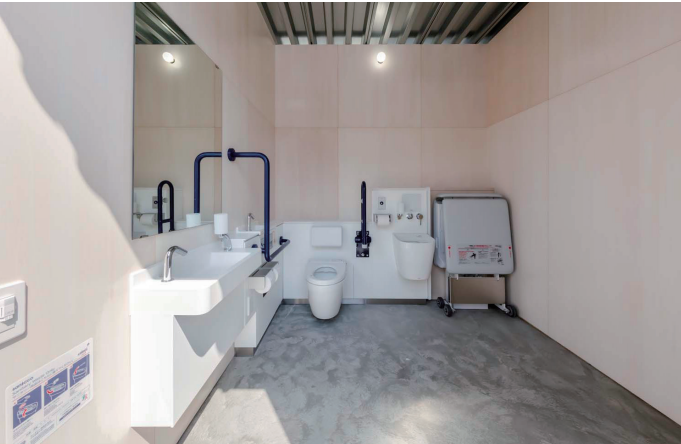


男性トイレは、個室型の小便器のみとし、回転率を向上。シンプルなデザインと節水機能を兼ね備えた、自動洗浄小便器を設置。壁面には、出口の方向を示す説明書きを2ヶ国語で表記している。



ドア開閉操作ボタン

入口と出口に、それぞれ扉が設けられたブースのため、開閉はボタン操作で行う。ボタンが作動しない場合に備えて、非常解錠レバーも用意している。



バリアフリースペース

左右勝手違いの仕様で横並びに2ヶ所設置。車いす使用者、オストメイト、介助を必要とする方など、多様な利用者に配慮した設備を完備。さらに、パブリック用折りたたみシートも配置し、利便性を高めている。



スタイリングコーナー

「夢洲の庭」の一角に、スタイリングコーナーを設置。個別鏡を採用し、鏡越しに隣人と目があわないよう配慮している。



サイン



各ブースに英語表記とともに掲示しているピクトグラムは、金属板に穴を開けたパンチングメタルを使用したオリジナルデザイン。使用時には点灯して満空状況が示される。

水まわりの特長

建物の特徴

5年に一度世界1ヶ所のみで実施される国際的イベント「国際博覧会」が大阪市内の夢洲(ゆめしま)で開催。会場内の休憩所やトイレなど計20施設を、公募型プロポーザルにて若手建築家が設計。「トイレ1」は、中央に「夢洲の庭」と名付けられた庭を配置。万博やIRの利用決定に伴い、更地となる以前の夢洲には植物や鳥類が棲みつき、独自の生態系が形成されていたが、「夢洲の庭」ではその生態系がアーカイブされている。安全鋼板で仕上げられた建屋は、反射により庭空間を広く見せる。トイレの利用者は、入口から個室へ入り、出口を抜けると「夢洲の庭」を一望できる。万博会場内において、夢洲の過去・現在・未来に思いを馳せ、自然と人間の共生を再考する場となることを目指した。

トイレの特長

男女別トイレに加え、左右勝手違いのバリアフリースペースを2ヶ所、オールジェンダートイレを3ヶ所設置。バリアフリースペース以外、施設コンセプトを体现するため、すべてのブースに入口と出口をそれぞれに設置。オールジェンダートイレも先に入室した方の性別を気にせず、快適に使用できる。男性トイレは小便器のみとし壁掛型の自動洗浄小便器を採用。女性トイレとオールジェンダートイレには、パブリックコンパクト便器・フラッシュタンク式と、衛生面に配慮して「きれいな除菌水」機能付きウォシュレットアプリコットPを設置している。バリアフリースペースには、さまざまな身体状況に対応可能なコンパクト・バリアフリースペースバックなどを設けることで、だれもが安心して利用できる環境を整えている。

建築概要

名称	2025年日本国際博覧会 トイレ1
所在地	大阪府大阪市此花区夢洲中1-1-20(2025年日本国際博覧会会場内)
施主	公益社団法人 2025年日本国際博覧会協会
設計	井上岳+森田久美子+赤塚健+齋藤直紀+中井由梨/GROUP
竣工年月	2025年3月
延床面積	81.27㎡
構造・階数	鉄骨造・地上1階
おもなTOTO使用機器	パブリックコンパクト便器・フラッシュタンク式:CFS498B ウォシュレット アプリコットP(擬音装置「音姫」付きエコリモコン):TCF5831AUP 自動洗浄小便器:UFS900WR コンパクト・バリアフリースペースバック:UADAK21L1A1ADD2BA パブリック用折りたたみシート:EWC500R系